

議事録2

司会：それでは、これまでの内容で質疑応答の時間とさせていただきます。ご質問のある方は挙手にてお願いいたします。私の方でご指名させていただきます。事前のご説明事項として、マイクをお渡ししますので、名前をおっしゃってからご質問ください。進行の妨げになる可能性がございますので、ご質問者以外の方の発言は、ご控えいただくようお願いいたします。また時間の関係もがございますので、ご質問はお一人さま3分まででご協力いただければと思います。それでは質疑応答に入ります。ご質問のある方、挙手をお願いいたします。

質問者1：一昨日、大宮が不正経理をしていると、あるサッカー評論家がTwitterで書いていました。それに対しての答えをお願いしたいのと、さっきの説明で分からない部分があったのですが、強化本部長は大熊さんの守備の欠点を言っていたのに、社長は大熊さんが素晴らしいとずっと言っていた。そのあたりがすごいブレているなというのと、あとリーダーシップが必要と言っていたのですが、では何で藤本選手を移籍させたのか分からないのと、19節のガンバ大阪戦で泉澤選手がスタジアムの入り口でチラシを配っていたんですけど、これをやらせた人物を教えていただきたいのと、あとラドンチッチ選手を獲得しようとした人物と、放出しようとした人物を教えていただきたいのと…。

司会：3分を越えているので一度、切らせていただいてもよろしいでしょうか。

質問者1：はい。

東山：あらためまして、管理本部長の東山でございます。不正経理があったというツイートについて話をさせていただきます。私どもの会社は株式会社であり、私たちは契約する大手の監査法人に毎年、監査を受けて決算報告をしています。今回こういうツイートがあったことに対して、私たちの会社としては、そういうことはないと言報告させていただきたいと思っております。また、このフットボールチャンネル（の編集長）さんのツイートがあったという事実は確認しております。それに対して現在、この方と連絡を取っているところで、当然私たちとしても事実をいろいろと聞かないといけないと思っております。お話を聞いた上で、必要な措置があればきちっと講じたいと思っております。何よりも、こういったことでファン・サポーターの皆さまに不信感を抱かせたということは、本当に私たちとしても心外でございます。社員が一生懸命に頑張ってくれていて、経理関係の処理もしてくれている中で、こういったことを言われることは本当に心外ですので、きちっと抗議していきたいと思っております。不正経理のご質問については以上でございます。

松本：まず私からは泉澤選手についてですが、（当日）メンバー外になった選手はサポーターの皆さまと触れ合えるようにと毎試合2人、イベントに参加してもらっています。その試合ではメンバー外になっていたの、という理由でよろしいでしょうか。

質問者1：すみません。決めた人物を教えてください。

松本：私です。順番に決めています。どうしても、メンバーに入らない選手が多くなってしまいますので、その都度、出場停止になっていたり、ケガで出られなくなったりしたときは、多くのサポーターの皆さまと交わってほしいと、（イベント参加を）お願いしていま

す。ラドンチッチ選手については昨年、ノヴァコヴィッチ選手の問題がありました。現場とも話をしまして、チーム統括本部長の鈴木、大熊、私で話をしたという経緯です。

鈴木：藤本選手については、当時の強化担当者が今いませんが、J1になった2005年に来ていただきました。(2012年にロアッソ熊本へ移籍した)当時の監督や強化スタッフが、次の年はJ1ではきついだらうという判断をして本人とも話をし、ロアッソ熊本からもオファーがあったというのが経過です。「大熊さんに対する松本強化本部長と私の言葉に差があるのではないか」ということについては、私は大熊さんの人間性、厳しく情熱があつてというところは本当に買っていました。ただ、それと戦術的に、例えば守備が良いか悪いかという問題は別です。私もそこまでサッカーの戦術とかシステムをよく理解している人間ではないですが、大熊さんの実績は評価していますし、私は大熊さんの人間性、情熱があつて厳しいところがアルディージャに必要じゃないかと思い、(就任を)判断しました。その結果、守備が良くないという結果につながった。コーチ陣の多くは大熊さんが連れて来ていましたから、言い訳になってしまうかもしれませんが、私は当然、結果が出るんだろうと信じていました。

質問者1：ということは、人柄だけを見て、「この監督は人柄が悪いから首にする」「この監督は人柄が良いから成績が悪くても続けさせる」というふうに聞こえるのですけど。

鈴木：先程、松本強化本部長から、得点数が少なくて失点数が多いと、昨シーズンの振り返りがありました。人柄は人柄として、私は大事だと思うんです。しかし今回は失点とか得点とかも含めて判断したということです。監督をやっていく上では、人柄も非常に大事だと思っています。

質問者2：いろいろ聞きたいことはあるんですけど、まず社長のこと。社長は一番に責任を取るべきではないかと思って。そして、これからの大宮に対しての実行力、能力、資質はあるのでしょうか。(監督交代を)浦和戦で決めたと言っていました。その前から大宮は破たんしていたというか、みんなもっと前から「ダメなんじゃないか」と思っていたと思うんです。その判断力、決断力、人事能力、そういうのはあるのでしょうか。J2優勝とか、J1(復帰)の2年目で中位とか目標を立てていましたが、実現する可能性はあるのでしょうか。目標は口だけならうまいこと言えますが、去年も勝ち点53と言って全然届きもしなかったのに、J1中位とか言っていけるのでしょうか。外国人監督が嫌だからとか、自らの保身のために監督(解任)を引き延ばしたとか、そういう情けない噂しか聞こえてこないんです。社長は、自分の社長としての能力、資質、そしてここにいる皆さんが社長の責任、資質、能力についてどう思っているのか。NTTの幹部にも報告しましたよね？ 僕はどうしても社長が社長としての実力があるとは思えないんです。この4年間、チームの成績に対して俺はこういうことをやったとかいうのを、ちょっと聞かせてください。お願いします。

鈴木：ありがとうございます。決断力や判断力があるか、能力はどうなんだというところについては、私はその時点で皆さんと話し合っ、例えば強化の関係でしたら以前は岡本GM、鈴木さん、松本さんたちと話をした上で、判断してきたつもりです。私一人の考え方だと組織が回らないということを念頭に置いて、皆さんの意見がどうかを聞いて判断してきたつもりです。実行力があるかないか(は別としても)、そうやって実行したのは間違いありません。ただ、トップチームの成績が伸びなかったことは誠に申し訳ないと思ってい

ます。また、アカデミーまで全くダメなのかというと、アカデミーはそれなりに結果が出ていると私は思っています。

それと、NTTなどの株主に報告したら、どう言ったか。株主がどう判断しているかについて私が直接話したところでは、1年で間違いなくJ1に戻してくれという話だけは使命としていただいております。それ以上の私がどうという評価については、人事の話だから言わないのですが、特に聞いていません。とにかくNTTグループとしてバックアップするので、1年でJ1に戻してくれという使命は受けました。そういう意味で、最後におっしゃっていた「実力があると思えない」というご意見は、貴重な意見として受け止めたと思います。

質問者2：勝ち点53に対する責任は？

鈴木：以前は勝ち点51、去年は勝ち点53以上、アジア(ACL)へという目標を掲げました。その責任うんぬんということで言うと、達成できなかったのですから責任は当然、感じなければいけないと思っています。その責任をどう果たすかというのは、今年頑張ってJ1に戻るといことしかないだろうと思っています。

質問者3：強化について質問したいと思います。昨シーズンは下平選手が移籍して左サイドバックが大変、手薄な状態になりました。去年は移籍市場を見渡しても、たくさんの実績のある左サイドバックが移籍したシーズンだったと思います。そんな中、われわれ大宮にも獲得のチャンスがあったのではないかと、外からは思えます。これらの選手は、みなJ2クラブの選手だったので、トップレベルの選手を取ってくるのは難しいという説明がありましたが、それには該当しない選手だったのではないかと、我々大宮アルディージャにも獲得のチャンスが大いにあったのではないかとと思います。そういった中で、(前年)ほとんどJ1で実績のなかった中村北斗選手を獲得した補強がどういう状況だったのか。今後そういった部分はどう回避するかということについて質問したいと思います。よろしくお願いたします。

松本：昨シーズンの左サイドバックについては、下平選手の移籍により補強しなくてはいけないということで進めました。それは事実です。そして、鈴木チーム統括本部長、大熊監督としっかり話をしながら中村選手に決めました。先程も言いましたが、プロの世界でするので条件、タイミング、本人の意思などがありますということしかお話できませんが、現に中村選手は来てくれました。それ以上は私の口からは言えません。

司会：恐縮ですが、質問をシンプルに分かりやすくお伝えいただけますと、お答えする時間も、より多くの方にご質問いただくお時間も取れますので、ご協力お願いします。

質問者4：外国人枠が1つ、アジア枠が1つ空いていますが、その枠を今後どうするのか教えてください。また、東洋大学と連携して強化していくという話があったのですが、なぜ東洋大学なのかなと。経緯をお話しいただけたらと思います。

松本：外国人枠については昨日の会見でも話をさせていただきましたが今、交渉中です。相手側のクラブの問題もありますから、「交渉中」としか言えません。申し訳ありませんが、ご了承ください。

岡本：東洋大学との関係ですが、9年前に業務提携をさせていただきました。その前からユース選手が何人か行っておりまして、サッカー観も近かったということと、東洋大学もサッカー部を強化したいというお話があり、コーチを派遣する形になっています。9年が経ち、トップチームと連携しながら、高校生の情報ですとか、どうしてもトップに進むのが難しいユース選手が東洋大に進むとか。そういったところで連携しながら、育成もできていると考えております。

質問者5：もう10年以上サポーターをやらせてもらっています。J1へ1年で昇格というのは大変、結構な目標ですが、冷静になって考えると、また同じことの繰り返しにならないかがとても心配です。“劇薬”となる強い外国人選手を取るようなサッカーを、また繰り返すのではないかが僕はちょっと心配です。怒る人もいるかと思いますが、個人的にはJ2でしっかりと実績を重ねるやり方も、選択肢としてはあるのではないかと思います、そのあたりはいかがでしょう。

松本：貴重なご意見ありがとうございます。先程も話をさせてもらいましたが、渋谷監督になってからは組織的な守備の立て直しが非常にできたと感じております。また、主力選手が多く残ってくれたということと、昨日発表させてもらった加入選手も、あれだけの選手が来てくれましたので、J2優勝を目標にしたいと思います。まずは元の位置に戻ることが目標で、それからその先に見えるところを、ベースを作って勝負に挑む。ということで、J2優勝は変えずにいきます。

質問者6：ここ2年くらいのアルディージャを見ていてすごく心配なのが、相手チームがアルディージャの良いプレーを消してきた時に、しばらく低迷してしまうこと。そして、なかなか弾き返せないまま違う手を打ってしまい、本来自分たちが伸ばしたいところをもっと研ぎ澄ませて跳ね返す力がないと、すごく強く思っています。昨シーズンも残留を懸けて後半戦は失速しました。そのときも、渋谷監督に代わって強くなったアルディージャに対して相手が手を打ってきたときに、跳ね返せなかったと思います。今回の方針を見ても、そういった振り返りが何もなく、「頑張ります」という状況です。鈴木社長のお話を聞くと、みんなの意見を聞いていくということですが、議論を深めたことに対して、相手がこうしてきたときにどうするのかと。議論を深めることに役立っていないのであれば、部下を育てていく力がないのではないかと思います。渋谷監督自身も準備が足りなかったということと、試合で何度もおっしゃっていました。相手が自分たちの良いところを消してきたときに、跳ね返す力をどう付けていくかについてコメントいただけると幸いです。よろしく願いいたします。

松本：渋谷監督の終盤の戦い方については、サンフレッチェ広島戦の引き分けを挟んで29節から33節まで5試合、勝点3を加えられなかったことは事実です。ただ、就任から3か月間で6勝5敗1分と、数字上で見れば、(年間で)勝点54~57くらいのペースでした。渋谷監督のサッカースタイル、目指すところは間違いないんじゃないかと、数多くの選手が残ってくれているところもあります。しっかりシーズン初めから渋谷監督でスタートして、1年見守ってほしいという願いをしたいと思います。ただ、ロスタイムで逆転ゴールを決められた横浜F・マリノス戦などについては、現場ともしっかり話をしています。渋谷監督は私にとってJ2時代のコーチということもあり、コミュニケーションは非常に取れています。その中で、お互い「ああでもない」「こうでもない」と、私からもしっかり

話をしますし、非常に今うまくいっていると思っていますので、期待して応援していただくようお願いできればと思います。

鈴木：社長が議論を高める術を持たないと、全体がうまくいかないのではということに関して、1年でJ1に戻るつもりです。今年はJ2になりましたが、うちのスタッフは、みんなJ1になってからのスタッフです。私は議論を高めるためならJ2をどれだけ経験するかというのも大事だと思っていて、全スタッフを研修という意味も含め、例えば愛媛FCがどんな運営やホームタウン活動をやっているかを勉強してきてもらう。そういうことで議論を高めていきたい。全員が分担して（J2）21クラブに行き、ツエーゲン金沢や九州のクラブがどんなことをやっているのか勉強してもらい、その上で議論する。それが来年J1に上がって、もっと良い活動になると考えています。そういうことをやろうと考えています。そんな中で私も議論に入っていきたいと思っています。

質問者7：昨年のサポーターズ ミーティングでも質問させていただきましたが、ユースのサッカーとトップのサッカーの違いについて。去年は鈴木徳彦さんにお答えいただいたとおりユースはユース、トップはトップという感じでしたが、今年はユースとトップの一体化となっており、ちょっと話が違うのではないかと僕自身は思います。ユースはユース、トップはトップという話をされたのは鈴木さんですが、関わっている岡本さんや大樹さんがいらっしゃるので、なぜこのような方向転換となったのか、見解を教えてください。お願いします。

松本：先程も話がありましたが正直、ブレていたところがあります。アカデミーはずっと継続してきましたから、トップがブレていたということをお認めしかありません。私は選手を引退してからスカウトを7年、強化部長を1年やらせてもらい、大宮の良い部分も、うまくいかなかった部分も分かっているつもりです。そのあたりをしっかりと修正していく上で、ユースに合わせるのではなく、そもそもそこ（組織的・堅守多攻）だったため、今後はブレずにやっていきたいと思っています。

質問者8：2点あります。まず鈴木社長。前にも言われた方がいらっしゃるのですが、「浦和戦が限界だった」とおっしゃられました。我々サポーターはその前から限界だと感じていました。特にホームの徳島ヴォルティス戦、個人的には広島戦でもう限界かなと感じておりました。そんな中で、ネットとかで保身のために（監督解任を）伸ばしたという情報も入っております。鈴木社長が、なぜそこまで伸ばしたのか、保身のためではないのなら、そういう言葉が欲しい。その言葉がなければ我々サポーターは納得できない。続投されるなら、その言葉が欲しいと思います。もう1点は、強化本部長にお伺いしたいのですが、「スカウトを強化する」とおっしゃられましたが、J2に落ちた今、ハード面以外でどういうものを武器にして、J1上位チームとの競争に勝っていくのかを、お伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

鈴木：7月末の17節徳島戦で負けたとき、ある新聞が監督交代みたいな話を書きました。情報管理がどうなっているんだという質問も出ていましたけど、情報管理うんぬん以前に、その時点で監督交代については意思決定を何もしていませんでした。ただ、結果が出ていなかったのでも、「マスコミに出た＝マスコミの言っている」ことを打ち消せるのは、監督やコーチも含めて選手の皆さんですよと、私は次のベガルタ仙台戦のときにそう伝えました。でもその後、選手は「やはり結果が出ない＝今の体勢ではダメだ」という気持ちになった

と思うんです。そんな中でも、松本強化部長や鈴木さんとも議論しました。大熊さんをはじめ、コーチ陣も責任を感じていましたからね。結果が出ないというのは、コーチ陣にも選手にも、ひょっとしたら私にも責任があるのかもしれない。みんなが責任を感じているんですよね。だからこそ監督、コーチ、選手が一体になって頑張ろうと、みんなで意識合わせをして進めていました。最終的にダービーという、順位にかかわらずモチベーションが上がる試合でああいう結果が出たところで、選手もこれ以上は頑張れないという形になったのは事実です。従って当時、鈴木徳彦さん、松本さんと話し合いを持って、大熊さんを代えると。その時に（コーチ陣の中で）一番責任を感じていたのは実は渋谷コーチで、渋谷さんに監督をお願いしました。保身という話をされていましたが、私は自分の身を守るためということは全然、考えないで判断しています。新聞にいろいろな情報が出ていましたが、私はそういう認識で経営はしていません。

松本：社長を庇うわけではないですが、保身というのはいけません。確かに徳島戦の後にいろいろな話をしました。コーチだった渋谷監督をはじめ、コーチ陣と話をし、何とか大熊さんと話しました。先程、社長からもありましたが、レッズとのダービーに負けた後、あの負け方はあまりにも厳しいということで、愛媛との天皇杯を挟んで鹿島アントラーズ戦まで2週間あるというところで、最終決断したということです。決して社長が止めていたとか、そういうことはありません。私が鈴木徳彦チーム統括本部長や現場とも話をしていたのが事実です。

スカウトについては、何度も青木選手の話になりますが、彼は私がスカウト1年目で獲得した選手です。（彼の獲得に動いていたのは）当時J2のセレッソ大阪、コンサドーレ札幌だったので彼も正直、取り合いになるような選手ではありませんでした。取り合いになる選手が、必ず良い選手になるとは限りませんので、私自身は今年スカウトはできませんが、しっかりとスカウトの見る目を磨いていく。彼のような選手を見つけ、育てていくというところで、もう一度しっかりと考え直していきたいと思っています。泉澤選手も昨年、大宮を選んで来てくれましたが、当時は専修大学の長澤選手が大学ナンバーワンで、関東の複数のJクラブが狙っていました。そこで私は、泉澤選手の出身地が千葉だということなども把握して大阪まで足を運んだ結果、来てもらうことができました。結局、長澤選手は各Jクラブを断ってドイツのケルンへ行っています。取り合いになる選手がJリーグで活躍して、世界に行くかという絶対ではありませんから、そのあたりもしっかりと見極めていきたいと思っています。

今年、これまでアカデミーをずっとやってきた西脇徹也をスカウトに置きます。彼は私と同期ですが、非常にサッカーを見る目が鋭い、深いサッカーの話もできます。泉澤選手のようなことが来年、再来年とすぐに続くかは分かりませんが、長い目で見ていただければと。私もスカウトを7年やらせてもらいましたが、選手を口説くだけでなく、高校や大学の先生、両親、僕の場合は選手の祖父母や中学の恩師まで行ったりと、いろいろとやってきました。そういうこともしっかりと西脇と話をしながらやっていきたいなど。一方で、育成からも非常に良い選手が出てきてくれるので、チームの中心となるコアの部分で育成で考え、足りない部分に外国籍選手に来てもらったりと、うまくバランスをとってやっていきたいと思っています。

質問者9：強化本部長にお答えいただけたらと思いますが、質問はGKに絞らせていただきます。今シーズンは、長年にわたってレギュラーを務め、ファンサービスでもかなり貢

献していた北野選手と、長年在籍してパイプ役にもなっていた江角選手の2人が出て行きました。代わりに入って来た加藤選手と塩田選手は、年齢的に変化がありません。このGKの入れ替えについて、明確なコンセプトがあったのかという説明をいただきたいと思います。先程の話の中で「GKの強化」と断言していました。ディフェンス面の強化ではなく、あくまでGKの強化という言い方をしていた部分を含めて、ご説明していただければと思います。

松本：GKについては先程もお話させてもらいました。ここで私が話をすると、実際にチームを離れた北野選手や江角選手との比較になってしまいますが、はっきり言うとパフォーマンスで判断しました。それから今後、簡単に言うとポゼッションですが、ビルドアップを含めてGKからスタートする、組織的なサッカーをしていきたいというところで昨日、加藤選手も言っていたようにGKから第一歩のパスが始まるんだということも含めて判断しました。これが事実です。

質問者9：確かに加藤選手は足元の技術が高く、お話にあったコンセプトに合致していると思います。塩田選手についてもJリーグでもトップレベルのコーチングを持っていると私も思っています。そういった部分では非常に理に適った入れ替えだと思います。しかし、渋谷監督のサッカーを構築していく上で、GKで言えば白井コーチですが、GKに限ったことではなくコーチ陣の入れ替えが全くありません。コーチ陣に責任があったとは言いませんけど、監督がコロコロ代わっている中で、監督の目指すサッカーを体現する上で、戦術の落とし込みやサポートといった部分で、コーチ陣のテコ入れや、1ランク上のコーチを取る必要があるとは思いませんか？

松本：コーチ陣については、12月6日のセレッソ大阪戦後に選手の補強ポイントの話をしながらか、まず渋谷監督の続投を早めにリリースさせてもらいました。今の選手たちは監督でチームを選ぶ選手も多いですから。もちろん、コーチ陣についても渋谷監督と話しましたが、客観的に私が監督、コーチ、選手についての判断をしました。渋谷監督からも今やってくれているコーチでやりたいとあり、私も客観的に見てこのメンバーであればうまくいくと考えました。選手からのコミュニケーション等も含め、昨年9月に就任した私が客観的に判断しました。何も問題なく進むと思っています。

司会：あとお一方の質問で、次の議題に行きたいと思います。

質問者10：最初に説明があったのですが、今年度は強化本部を設置したという話で、チーム統括本部から強化本部となった違いがよく分かりません。昨年も強化はちゃんとなさっていたと思うのですが、その違いについて、ご説明していただければと思います。

鈴木：チーム統括本部の前は、ゼネラルマネジャー制をとっていました。そのGMを岡本にやってもらっていたのですが、そのときは育成、普及、強化という3つを1人で抱えるという組織にしていました。そのGM制を廃止したときにチーム統括本部を設置し、育成と普及は長い経験のある岡本さんにやってもらうことにして、選手の契約書や遠征の帯同費用なども全て対応してもらうために、チーム統括本部という名称にしました。簡単に言えば、強化と育成の2つに分けていました。それで強化は鈴木さんに、育成は岡本さんにやってもらっていました。今回、強化本部に変えたのは、強化に特化するために一部の業務を外しました。昨年までは、例えば強化のために使う選手人件費を管理会計上、処理す

る仕事まで与えていたのですが、それを管理本部に動かし、本当に強化とスカウトに特化できるようにしました。今までのチーム担当の方も強化やスカウトを複合的にやるようにしました。昨年のチーム統括本部にはポルトガル語や英語が話せる人がいるんですが、今まではチーム管理しかやっていなかったのも、強化本部にして複合的にやらせることで、スカウト活動や海外での補強活動もできるようにするため、「強化本部」という名称にしました。そういうことをご理解いただければと思います。ですから、松本さんにはトップチームの強化とスカウトに専念してもらいます。

松本：補足です。私は強化を8年やらせてもらいましたので、うまくいったところ、うまくいかなかったところを考えた際、よりサッカーに集中して、より良くしていきたいということで社長にお願いをして、無理を言ってやらせてもらっているというのが事実です。

司会：会の最後にあらためて質疑応答のお時間を持ちますので、次の議題に進めさせていただきます。次の議題は、取締役事業本部長の久保田より事業全般について、取締役管理本部長の東山よりコンプライアンス、クラブハウスの管理全般について、ご説明させていただきます。その後、こちらのテーマでも質疑応答のお時間を持ちたいと思います。

久保田：あらためまして、久保田でございます。今シーズンもどうぞ、よろしく願いいたします。私からは事業のサマリーということで、広告料もあるのですが、入場者関係の数字だけを入れさせてもらっています。ご覧のとおり、リーグ戦の総来場者数の平均は、10,811名でマイナス約3%弱。シーズンシートがマイナス2.2%。ファンクラブがマイナス14.5%と正直、悪くなっています。特にファンクラブに関しては、ライト層が多いと思われそうですが、かなりの影響を受けたと思っています。(スライドの表示が)小さくて恐縮ですが、平均来場者数の10,811の下にスタジアム収容率を入れております。83.2%と言うのは質問書に書いてある数字が正しいのですが、12,869という我々の設定している数値に対する率で、これはJリーグ全クラブ中まだ1位です。皆さまのお陰で何とか保っているという状況です。3月以降の話をしないといけないのですが、過去の降格クラブ初年度の来場者の推移を見ていきますと、かなり厳しいと思っております。正直2割から3割くらい減る可能性がありますので、それらを含めまして今、事業計画を立てているところです。できるだけ多くの方に来ていただける工夫や努力をしていかなければいけないと思っています。引き続き、皆さまのサポートをお願いしたいと思います。グラフで次のページから少しずつお話しします。

これは平均来場者数の5年間の推移です。一番低いグラフが、東日本大震災があった2011年です。そこから伸びまして2013年に一気に11,138まで行ったのが、少し落ち込んだという形です。シーズンシートは、やはり2013年にグッと伸びておりまして、これは前半戦の快進撃の影響が非常に大きくて。ただし、実はその内訳にはハーフシーズンシートが約600席ほど含まれており、そういう意味で言うと、実は昨年（2012年）のハーフシーズンの売り上げが178席なので、実際には2014年の方がフルシーズンが多いというのが現状です。ただ、今年はインパクトとしては厳しいものがあると考えています。ファンクラブに関しては、2014年は少し2013年から下がって、先程インパクトがあったと話しましたが、昨年（2013年）からスクールの子もたちを自動的に会員に入会していただき約1,800くらい積み上がっていますので、5,000台後半くらいまで増えています。ですから現状、我々のファンベースは認識として、シーズンシートの皆さまと合わせて10,000名くらいのボリュームを持っていると考えております。引き続き、頑張っていきたいと思っています。短めになってしまいましたが、以

上が事業の報告です。代わりまして、東山から報告します。



東山：あらためまして、管理本部長の東山です。私はスライドをご用意させていただいていないのですが、質問書で32ページ以降について話をさせていただきます。着席させていただきます。私自身がコンプライアンスを担当しており、常日頃から責任を感じて取り組まさせていただいております。さかのぼること4年前、平成23年1月に特別委員会を立ち上げ、コンプライアンスに関して今日までやってきたところでございます。ここに書いてある様々な研修などについても公式サイトで逐次、報告させていただいておりますが、今後こういったことに取り組んでいきたいと思っております。Jリーグからも「いろいろよく取り組んでいる」という話しはいただいております、慢心することなく、今後も取り組んでいきたいと思っております。

昨年は浦和レッズのサポーターの人権関係が取りざたされ、また夏過ぎには横浜F・マリノスのサポーターが川崎フロンターレ戦でバナナを振るといった、人権に関する事件が多かった1年であり、特に昨年は人権に関して取り組んだところです。大宮アルディージャのファン・サポーターの皆さまに対しても、埼玉の人権委員のお力を借りて、様々な形でスタジアムモデルという活動をさせていただき、今年度も継続して取り組んでいきたいと思っております。回答にも書いておりますが、引き続き責任を持って取り組みさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。クラブの社名を「エヌ・ティ・ティスポーツコミュニティ」から「大宮アルディージャに」ということですが、大変に貴重なご意見と思っておりますので、引き続き参考にさせていただき、検討していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

次にクラブハウス関係でお話させていただきます。駐車場は皆さまに大変ご不便をかけていますが、昨年も申し上げさせていただきましたように、クラブハウスとグラウンドは地元の皆さまの強いご要望で、あの地に建てたこともある一方、車が増えることで交通事故が発生してしまうと大変に心配されています。そういったことから、現時点ではまだ駐車場を設置しないとしています。HPや街のページにも出させていただいていますが、近隣の商業施設、公共施設、スーパーなどを使われると、非常にご迷惑が掛かります。秋葉の森の駐車場を使うことでも、非常にご迷惑が掛かるので絶対にしないよう、あらためてお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。当然ながら、うちのスタッフや選手に対しては交通安全に関して、1月27日に交通安全の講習をしていきたいと思っています。

ナイター設備ということも今までの報告で申し上げたのですが、高木グラウンドの芝の下には、さいたま市内で発生したゴミを処分した、最終処分灰が埋まっております。ここはさいたま市環境課さまが管理する、非常に特殊で難しい土地であり、照明灯の鉄塔を建てるのが非常に困難だったため設置しておりません。ナイター練習が必要なときは、投光器を一部使用したりNACK5スタジアム大宮を使うということで、ご回答させていただきたいと思っています。また、バイク、スクーター、車ということですが、上記と同様に地元の皆さまの強い要望で、車が増えることで交通事故の発生をとっても心配されております。車はバイク・スクーターを含むということで皆さまにご理解をいただきながら、今後も皆さまと一緒に交通安全に努めたいと思っています。クラブハウスの関係を含めて、記載させていただいたことを中心に報告させていただきました。以上でございます。